第１０回阿波おどり実行委員会議事録

開催日時　平成３１年１月１０日（木）午後３時３０分～

開催場所　徳島市役所１３階　第二研修室

出席者　　委員８名（内代理２名）　阿波おどり振興協会２名　事務局９名

１　開会

２　代理出席者紹介

３　阿波おどり振興協会入場

４　出席者紹介

５　議題（１）　阿波おどり振興協会との協議について

【委員長】

早速、本題に入らせていただきたい。今年の阿波おどりについて、阿波おどり振興協会（以下、「振興協会」と言う。）に前夜祭に出演いただきたい。そして、選抜、桟敷席の張り付けについて、出演いただきたい。そして、フィナーレについて、総おどりを４つの演舞場にて日替わりで盛り上げていただきたいと考えている。阿波おどりを成功させるためにも、盛り上げるためにも、振興協会の協力は必要不可欠と考えており、お願いしたい。

【振興協会Ａ】

委員長より、前夜祭・選抜・総おどりの実施について協議をしたいという話をいただいたことに関しては、この場にお招きいただき、お礼申し上げます。実施については、前向きに検討していきたいと思っている。

その前に、１つだけ確認させていただきたいことがあるのだが、よろしいか。

【委員長】

はい。

【振興協会Ａ】

過去にボタンの掛け違いとか色々あったが、１つだけ納得できないところがある。７月１０日に振興協会の役員を刷新すれば、前夜祭の出演を検討してもいいということを、７月４日の実行委員会の決議事項の中で話が出たことを、委員長が話されたことだと思うが、私どもを信用できる団体ではない。我々のトップ、執行部を替えてくれば出

演について検討するということであったと思う。

私どもは各連長１４名からなる１つの組織である。会長、副会長、運営等を規約に基づいて行っている。それを２日の間に替えてきてくれというのは、最初から、無理難題を押しつけられているという風にしか思えなかった。結果ありきの話では筋が違うのではないか。我々も市内の１つの団体で、その団体に執行部を刷新して来いというのは、普通では発言をされないと思うのだが、その発言内容については、ここにいる実行委員の総意での発言だったということで理解しているが、それでよろしいか。

【委員長】

これは、不毛な話になるので、やめにしないか。今年の阿波おどりを大同団結し、盛り上げていくために去年の話はここではしない方が阿波おどりのためにもいいかと思っているがご理解いただけないか。

【振興協会Ａ】

我々は、新聞でその様に報道されたことに対しては、現在も信用ならないと思われているのなら、信用ならないと思われているということで皆さんと話をしたいと思う。だが、信用してくれているというなら、信用してくれていることを前提に話をしたいと思う。

【委員長】

信用しているから今日は来ていただいている。是非、前向きな発言をお願いしたい。

【振興協会Ａ】

わかった。

【振興協会Ｂ】

振興協会Ａが発言したようなことは、自分も忘れていた。言った、言わないの話を含めて、私どもの会長も立腹していたが、理不尽な部分が多かったことも含めて、今日ここに出て来たということは、委員長が今言われたように、ある程度は横に置いて、これからは建設的な意見を持ってやっていこうという意志であるとご理解はいただいてよろしいかと。

ただし、過去の事について何もかもを論議しないというようなことであれば、実行委員会の皆様にお伺いするが、前夜祭と総おどりだけが阿波おどりのすべてであるのか。たかが３０分、それも２部の最後。総おどりというのは、売れない桟敷を満杯にしたいという思いで、我々が培ってきたノウハウを生かし工夫しながら、この半世紀かけてやってきたものである。それらを否定された部分について、「全くおもしろくない、場合によっては嫌々するようなぎゅうぎゅう詰め踊り。これは阿波おどりでない。」これは市長も口が滑ったのかもしれないが、この前の発言の中では、「全国的に総おどりの素晴らしさが、よくPRされたので今年の阿波おどりのプラスになる」というような言い方に変わっている。人の解釈というのは変わってきて然るべきだが、それに対する儀礼的な部分も含め、一方的であるのではないか。そういうコメントも、皆様方の気持ちを

お伺いしながらお話し合いをさせていただく方がいいのではないかと思う。その上、先程から言うように、建設的な意見の中で進めていきたいと思う。

重複するが、総おどりと前夜祭、この２つが阿波おどりを成功させる要因として何％かはあると思うが、それだけで成功するとは思えないがどうか。

【委員長】

それは、おっしゃる通りだと思う。ただ、実行委員会として、阿波おどり連の団体である皆様に対して、今年の阿波おどりの出演のお願いをしているわけである。

【振興協会Ｂ】

昨年の５月に遡るが、我々は再三再四にわたり、実行委員会事務局、事務局長、事務局次長に対して、今年の阿波おどりが迫ってきているが、どういうような形で計画をしていくのか、時期が来ていると、提案を申し上げている。それには一切触れられていない。これは、市長が待ったをかけたものだと思い込んでいたが、そうではないようなことも聞いたこともある。どうなのか。

【委員長】

そうではない。

【振興協会Ｂ】

ということは、我々が言っていることが全く伝わっていないという認識で良いのか。

マスコミもいて、実行委員会の諸先輩方を差し置いて申し訳ないが、観光協会の破産の有無に、我々が協力していたことは事実である。しかしながら、第二審の部分で観光協会の会長を含めた主だった役員は高裁から最高裁まで行くという強い信念のもとで動いていた。私は、欠員がでた観光協会役員の補充として理事に推薦され、一昨年の１２月に初めて就任した。マスコミの中には、この何年間ずっと観光協会の理事をやっているかのようなニュアンスで書かれたが、私は振興協会の役員であったが観光協会の理事ではない。役員会の中で６月の決定を待って、それでも控訴するということは反対だった。理由としては、控訴することによって、去年の阿波おどりの開催が難しくなっていくということを理解していた。観光協会の役員ではあるが、踊り手の１人として、それはベターではない。はっきり控訴しない方向での意見を述べた。そうでなければ、阿波おどり自体が前に向いて進まない、混乱するということを一番危惧していたからである。

当初、阿波おどり運営協議会にお誘いがあったときにも、係争中の立場であるため、不信感、混乱を招いてはいけないので、現段階では、参画することはできないということを、事務局次長にお伝えした。ただし、係争を取り下げる云々ということになった時点で、改めて、どこが主体であろうが、阿波おどりに対し振興協会は進んで協力させていただくので、その際には運営協議会にも参加させていただくということは、明確に伝えているが、これはご存じないのか。今、初めて聞いたということであれば、事務局が伝えていないということになる。

【振興協会Ａ】

裁判所での結論が出た際には、徳島市から要請があれば運営協議会に参加する可能性があると、新聞の記事になっている。

【振興協会Ｂ】

当初のお誘い以降に呼びかけはない。どういう風に伝わっていたかわからないが、運営協議会は単なる諮問機関程度のはっきり言って存在感のないような会かもわからないが、踊り団体として協力していく意志は示していたが、実行委員の皆様はご存じでなかったのか。振興協会と実行委員会が敵対していくような構図がずっと言われている。１回も皆様方の指示に逆らったことはない。ただ、１つだけ総おどり中止だけは辛抱できないという形で言わせてもらった。委員長が思っている以上に徳島でのイベントを成功させることが一番の目的であるということは、信用していただきたい。

その中で、県阿波踊り協会の会長で、徳島新聞社社長がいらっしゃる。踊りのことも１から色々知っている。今年の前夜祭も然り、選抜阿波おどりも然り、桟敷の張り付けも含めて、ノウハウは徳島新聞社が持っている。新聞社事務局にも連絡して、担当者に早く決めないとリハーサルもある、練習もしないといけない、どうなっているかと、辛抱切らせて何回も連絡を入れた。新聞社担当者に連絡を入れても、「市よりまだ返事ができない。まだ、待ってくれ。」と言われ、これはおかしいと思った。徳島新聞社社長が実行委員であるなら、県阿波踊り協会を通じてノウハウを教えてもらい、桟敷の張り付け方等の段取りをどうしてしなかったのか。ただ単に遅れたという委員長は「結果８０％は上出来だった。素人のメンバーがやったにしては上出来だった」との弁明があったが、知らない人がやったらあれぐらいになる。だが、知っている人がいるのにどうして協力を求めて、徳島新聞社に運営協力させなかったのか。

【委員長】

徳島新聞社と市役所職員が実際に会って協議等はしていた。

【振興協会Ｂ】

それでは、張り付けの一つにしてもどのように張り付け方をするかということをどうして徳島新聞社、県阿波おどり協会の事務局に聞かなかったのか。

【委員長】

問い合わせするもしないも、一緒に運営をしていた。

【振興協会Ｂ】

Ａ委員、あれは徳島新聞も一緒に運営して出来なかったということなのか。

【Ａ委員】

どの部分を言っているのか。振興協会に張り付けはお願いしている。

【振興協会Ｂ】

お願いしたと言っても遅い。事務局次長に何回も言った。前夜祭はいつ決める、いつリハーサルする、どのようにするのか、我々がまだ前夜祭に入れていただけないという

ことを知らない時期、総おどりなどの問題も間で出ていないときに、すでに話をしている。

【委員長】

振興協会Ｂがおっしゃられたいことがたくさんあることはよくわかる。だだ、今、去年のその問題を追及しても不毛であるとは思わないか。

【振興協会Ｂ】

不毛の一言で片付けられるものなのか。別に日を改めて話をしてもいい。今日については、前夜祭、総おどりの部分で構わないが、そんなことの検証も無しに建設的な意見ができるのか。そういう問題も含めて、止めると言われれば止めるが、総おどりと前夜祭だけを解決したら出来るという問題ではない。これまで阿波おどりの問題について色々な改革案をご提示させていただいてやってきた。そういった中で徳島市が抱える補助金事業の無料演舞場については少なくとも毎年２，０００万円程度の赤字が出ている。明石大橋が開通して広域交流、高速交通という時代に入ったときには、徳島市内の駐車スペース、交通渋滞の緩和対策の一環としてシャトルバス事業が出来てきた。この部分についても、１，６００万円の収入に対して２，６００万円の支出で１，０００万円の赤字がその時点で発生している。補助金を使って観光協会に実施させた事業の中で、毎年明石大橋ができてから３０００万円程のマイナスがその時点で出ていた。そういったことも公益社団法人の中でやりくりしながらやってきて、徳島新聞社と色々と話をさしてもらい８００万円のマイナス（桟敷改修費用の３，０００万円を除く）になった。その翌年は２，５００万円の黒字になっている。それで少しずつでも改善させていけばいいかなという風になっていた。そこから以降は皆様方がご存知なので言わないが、そういった中でなぜ、どうしてチケットが売れないのかという議論をしたのか。これは大事なことだと思うが、ある年に新聞社の方から市役所前演舞場について、「もうここは立地条件が悪い。繁華街から離れている。尚且つケーブルテレビ徳島がライブで放送する。このことによって客は入らない、廃れるのは無理が無い。だから、赤字として存続させていくわけにはいかないので桟敷をカットしていく。」ということを提案された。私どもはそのことを求められて利害関係のない踊り手の立場として、一つの桟敷がなくなることの方が非常にやるせない、新たな桟敷を設けるのであればいいと思ったが、警察との関係の中で難しい。そんな中で何とか桟敷を運営するために、最終的に私が市役所前で一回総おどりをやってみるという案を３年前に出した。毎日場所を変えてするという案もそれから以降マスコミの人にも話している。今日、実行委員会で言われた部分については、前向きな姿勢で全面的に、お受けしたいと思っているが、それをやったから徳島市の阿波おどりが黒字に転じて成功に終わるのか、自分は終わらないと思う。なぜなら、２部制にしてから以降の特に市役所前と紺屋町の２部、これらのチケットの売り上げ枚数は激変して毎年減っている。今年の１５日の雨が降ったことは別にしても１４日２部で観客を数えたら１９３人と数えられた。チケットの売り

上げ総数はそんな数ではないはず。これはあくまで私見と思って聞き流していただいたらいいが、徳島新聞社にもだいぶ負担がかかったと推測している。その市役所前に入らない理由は実行委員会で議論したことはあるのか。

【A委員】

振興協会Bさんの言いたいことはわかる。ただ今日の会議は踊り団体の代表として協力いただけるのか、という話である。阿波おどりチケットの売れ行きが悪い、これはこれで有識者会議でも議論してもらっており、我々も当然改善していかなければいけないと思っている。今日はそれを議論する場ではないと思う。ここに来ていただいたのはあくまでも、振興協会の代表として実行委員会、有識者会議でも指摘のあった総おどりの復活についてご協力をいただけるのかということをご依頼したいということについて話をしたい。

【振興協会B】

その話以外はできないのか。

【A委員】

観光協会の破産手続きなどの話は一旦置いておかなければ話が進まないと思う。

【振興協会B】

観光協会の部分は置いておいても、阿波おどりを成功させる一つが総おどりの復活であり、前夜祭の出演依頼を求めるのであれば、それだけが全てではなく成功ではないと思って意見している。

【A委員】

そういうことでない。それは有識者会議で今議論しており、実際実行委員会も、この後に提言を受けどうやって実施していくべきなのかを協議していく。

今日、ここに来ていただいたのは、ボタンのかけ違いもあり、出演していただけなかった状況もあったので、それを改善するためにお願いできるかという話である。

【振興協会B】

総論については、さっきから言っているようにお受けする方向である程度考えていきたいと思っている。我々も出来るという判断の中で意見を言わせていただいた。

【A委員】

そこを我々は聞きたい。

【振興協会B】

それだけで解決する問題かというとそうではない。日替わりの総おどりをやってくれとのことだが、そう簡単には出来ない。解決しなければならない問題はここで議論できないのか。

【A委員】

そうではなく、やっていただけるかどうかで問題があるとすれば、どうしたら解決できるのかも議論の一つ。

【振興協会Ｂさん】

問題提起は出来るのか。

【Ａ委員】

勿論そうだが、実行委員会の提案としてお願いしている。

【振興協会Ｂ】

実行委員の発言や総おどりを止めさせた経過というものを聞いたが、旅行会社が商品をすでに売り出した後で、総おどりを中止するという意見を実行委員のメンバーである旅行会社の代表が言ったなんて考えられない。実行委員会の皆さんが本当に全部理解をして物事を発言しているかどうか非常に疑問がある。そういった中で総おどりを復活するのは結構である。やるべきことをやれと言われればやる。上から目線であろうが出演してくれと言われればやらせていただく言う答えは出す。しかしながら、市役所前の一つの桟敷を捉えてみてもどうして２部が入らないのかということの認識はご存じないと思う。

【委員長】

話は尽きないようだが、今話の中で踊れと言われれば踊ると、はっきりおっしゃっていただいたが。

【振興協会Ｂ】

１年前から言っている。

【委員長】

前夜祭の出演、選抜の出演、そして桟敷の張り付けへの協力、そして総おどりを４カ所演舞場で日替わりにやっていただく、これが実行委員会からのお願いであるが、この件はお受けいただいたということでよろしいか。

【振興協会Ｂ】

前夜祭と選抜と張り付けについては、明日からでもできる。ただし、この総おどりについては、自負もあり５０年近くかけて実行してきたものであるが、これは前回の会議を傍聴の人から聞いたが映画「眉山」が終わった翌年ぐらいに徳島県阿波踊り協会（以下、「県協会」という。）も売れない桟敷で何かやってみたらどうだということを企画されて３年程やった経過がある。８連で踊ったが、音があわない。最終的には連員どうしのトラブルになり無くなった。

【委員長】

色々苦労されて完成させたというのはわかる。

【振興協会Ｂ】

そうである。県協会の実力を持ってしても一朝一夕には出来ないということを認識してほしい。どういった理由かというと、鳴り物での誤差があるにもかかわらず、それをしようとすれば非常に難しく出来ない。連長を束ねて色々連員に練習もさせながら完成するのに５０年かかったのが総おどりである。そういったものを日替わりでやる

ことはやれと言われれば出来るが、それにはスタッフというものが非常に重要である。踊り場の形状やフェンスの有無、それぞれ形態が違う。そういった中でお客さんに怒られながら色々な形でやってきて総おどりを完成した。頭しか見えない人もいる中、観客に納得してもらえるようスタッフが必要である。そして、警察との関係もあるので、１０時３０分までに確実になし遂げなければならない。去年、藍場浜は混雑して終わるまでに１１時までかかっていた。逆に市役所前、南内町は客がいるにもかかわらず、踊り連が足りなかった、どのように補充していいのかわからない、そのまま客を待たしたということがあった。我々は時間までに集めるためにノウハウを持った人の力も借りながら、連のまとめや整列もさせなければならない、どこに鳴り物を配置するのか、何人になるのか、こういう細かいところの数字も考えてやるにはノウハウを持ったスタッフが必要である。極端に言えば、我々はお受けするが、昨日いたスタッフを明日は全員変えていただく、というようなこともやらなければならないことは、ご存じなのか。そういうことも踏まえて我々に依頼をしているのか。

【委員長】

詳細については、後ほど相談させていただくつもりである。

【振興協会Ｂ】

本来、そういう考えがあるのならば、総おどりをするために、どんなことがネックになるのかを振興協会と話をする。その中で今日の段階の話にすべきではないのか。

【Ａ委員】

今問題点が出たので、前向きに考えていきクリアすれば出来ると思っている。スタッフの配置も含めたものを具体的に本当に可能かどうかの検証はしなければならない。ただ単にどこに行っても出来るというものではないということは十分に分かったが、条件さえ整えば出来るということも分かった。これから話し合う中で、例えば、毎日場所を変えるのではなく、２日間は同じ場所でした方がよいのではないかとか色々な意見があると思う、ただ実行委員会としては日替わりでやって貰えないかという案である。それを受けて今のような問題の意見をいただいて、実行委員会で解決策を講じなければならないと思う。やはり総おどりはやっていただきたいわけで、そこについては話し合い出来ないか。

【振興協会Ｂさん】

いくらでも出来る。最初からそう言っている。そうでなければ、この場には出てきていない。

【Ａ委員】

今まできちんとしたコミュニケーションが出来ていなかったのは確かである。それを踏まえた上で、総おどりのすばらしさも再認識をして実行委員会としてお願いしたい。ただ、実行委員会の意見だけではなく、有識者会議の提言も踏まえながらお願いできないか。

【振興協会Ｂさん】

有識者会議の提言はそのとおり言ってくれたらいいです。

【Ａ委員】

阿波おどりを盛り上げるためには、チケットをお買いになった方々がどこの桟敷でも基本的には同じ踊りを観覧できることが良いと思っているため、お願いをしている。

【振興協会Ｂ】

それは総論的にはお受けしたいと言っている。去年の反省をしないことは褒められたものではない。間違いは間違いとして認めなければならない。

【Ｃ委員】

受けていただけるかどうかの会議ではないのか。本来の議題に返していただかないと時間がかかる。

【振興協会Ｂ】

まだ約束の１時間も経っていない。

【Ｂ委員】

ご協力いただけるとはおっしゃっていただいている。その後で、問題点があれば個々に解決していくということでいいのではないか。

【振興協会Ｂ】

どうしてこんなことになったのか。最初からわかっているのではないか。去年の不出来な部分、失敗に終わったのは、総おどりで我々が反発をしたことが一つ、平日にお盆の間が入ったことが二つ、三つ目は悪天候だと言われている。どれ一つ当たっていない。我々が過去何十年かやってきた中で、平日の開催になったことはいくらでもある。それから今年天候が悪かったから売れ行きが悪かったと捉われがちだが、阿波おどりの桟敷のチケットの９７，８％までは前売券ではないのか。１５日に雨が降ったが、既に売れていたチケットの払戻をしたのなら話は通るが払戻をしていない。当日券は１％か２％でしかないのに、なぜ天候がチケット販売に影響するのか。

【委員長】

当日券の販売率は、１５、６％である。

【Ａ委員】

阿波おどりを隆盛させるための考えを出してもらわなければならない。先程からも言っているように、阿波おどり振興協会の協力が得られるかどうか。これが、今年の阿波おどりの成否に関わってくるということを重大に受け止めており、まずはそこに対するご回答をいただきたい。阿波おどりのチケットが売れなかったなど検証しなければならないことは沢山ある。

【振興協会Ｂ】

その検証の時には、我々の意見も聞いてくれることもあるのか。それとも、全く聞く耳もたないのか。我々に発言の機会はあるのか。それとも、有識者でやるから黙ってい

てくれ、実行委員会で決めるということで終わるのか。

【振興協会A】

どこのレベルで協議させていただけるのか。実行委員会で協議させていただけるのか。

【振興協会B】

実行委員のメンバーでもないため、ここで協議をとは言わないが、呼ばれるのであれば毎回でも出席する。どうして市役所前の桟敷が売れなかったかの話もする。総おどりをしなくても、そこを復活させる方法をいくつか持っている。そんな話をなぜ聞こうとしないのか。

【委員長】

おっしゃりたいことは、よくわかった。

確認をさせていただきたい。阿波おどり実行委員会として、振興協会の皆さんに、前夜祭を踊っていただく、選抜にもご協力いただく、桟敷の張り付けにもご協力いただく、そして、エンディングとして総おどりを4日間、できれば日替わりで4つの有料演舞場でやっていただきたい、というお願いに対しての回答としては、やっていただけるということでよろしいか。

【振興協会B】

条件整備が整えば、やらせていただく。できないものはできない。それを整えていただけると、A委員が言ったのではないか。

【A委員】

基本的には総おどりの部分だけ。何が問題点なのか、もう一度洗い出しして、それが実現可能なようにできないか。

【振興協会B】

それは結構。

【委員長】

実行委員会としても、総おどりをそれぞれの演舞場でできるように努力をさせていただきたいと思うので、是非ご協力をお願いしたい。

【振興協会A】

まだどの場で協議するかの結論もらっていない。

【A委員】

協議というよりも、阿波おどりを成功させるため、さらに隆盛にするためには色んな意見を聞くのは当然。ただ、実行委員会という組織がある以上、意見の取り入れ方については、別途協議するのでどうか。

【振興協会B】

以前の実行委員会でも小委員会みたいなのを作った。そういったものがあるなら、大いに協力させていただく。

振興協会ばかりが踊り手の代表と言わないでいただきたい。踊り手としては、県協会も阿波おどり保存協会もある。そういうところの代表者の意見を聞かなければ、振興協会ばかり踊り子の代表みたいな形で言われるのは少し苦しい。

【Ａ委員】

色んなアイデアを持っているということはわかった。実行委員会としては、様々な方の意見を取り入れるので、今後、検討したらどうか。

【委員長】

そうである。去年、運営協議会に入るのは拒否をされていたが。

【振興協会Ｂ】

拒否していない。確認していただきたい。

【振興協会Ａ】

我々が提出した書類には、「今の時点では回答は待ってください。」と記載している。委員長は７月２４日に「振興協会が途中から運営協議会に参加することを歓迎する意向を示したうえで、振興協会に所属する有名連１４連は阿波おどりには参加する見通しだ。」ということを会見で話されている。

【委員長】

去年のことは、置いておこう。

【振興協会Ａ】

そういった事実があったということだけ。

【委員長】

運営協議会には参加していただけるのか。

【振興協会Ｂ】

参加させていただく。

【委員長】

わかった。

【振興協会Ｂ】

喧嘩しているなどと、ここから先も思ってない。

【委員長】

阿波おどりを盛り上げたいという気持ちは共通のものであると信じている。

【振興協会Ｂ】

最初から協力すると言っている。

【委員長】

今後、一緒に協力をして今年の阿波おどりが成功するように、是非よろしくお願いしたい。今日の回答を今年の阿波おどりの方針として、これから全国に向けて発信したいと考えている。どうかご協力よろしくお願いしたい。

5　阿波おどり振興協会退場

6　議題（2）　阿波おどり事業検証有識者会議の状況について

【事務局】

阿波おどり事業検証有識者会議の状況について説明。

【委員長】

有識者会議での議論は途中であり、最終提言が提出されたのちには改めて議論いただくことになるが、今回の資料に意見がないか。

ご意見ないようなので、以上を持って第１０回阿波おどり実行委員会を終了する。